

令和3年度 授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 成果報告書

学校名	府立三島高等学校	名前
-----	----------	----

1 学校教育目標（めざす生徒像）

「自主自律」「文武両道」で実践を重ね、人生を主体的に切り拓き社会に貢献することができる生徒を育成する。

- ①総合力のある教育指導（授業、特別活動、部活動、生活習慣・規範の醸成）ができる学校
- ②生徒一人ひとりへのきめ細かな指導を行い、学力と進路の保障ができる学校
- ③高い志と夢・グローバルな視野を持つ生徒を地域とともに育むことができる学校

2 令和3年度の校内研究の取組み

（1）研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

研修の包括的活用によるオープンに話しあえる学校づくり

②テーマ設定理由

本校では、各教諭がそれぞれ高い意識を持って授業力向上に取り組んでいる。しかし、時間的制約が多い中でその取り組みは閉じられたものになってきている。公開授業の参加者の減少や、研究協議の回数の減少が顕著である。

一方、年度当初、予定されている初任者研修の研究授業や研究協議、全体研修など、校内で設定されている研修が多く、それぞれの担当者が負担感を感じている現状があった。

上記の現状を踏まえ、今年度本校で行うパッケージ研修を活用して、様々な研修を包括的に、授業力向上のための機会として整理して、取り組むことをテーマとして設定した。それぞれの教諭の負担を減らしつつ、求める生徒像を共有しながら授業力向上に学校全体で取り組むことができる学校づくりをめざしたいと考えた。

（2）校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

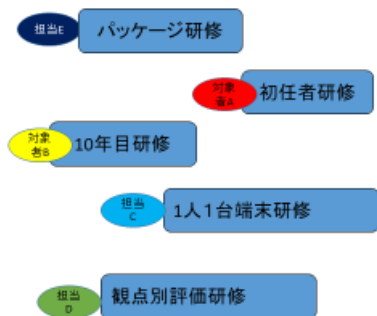
新しいことに挑戦するための機会を学校で組織的に用意することの重要性。

②具体的な取組み

- ・校内で予定されている授業力向上にかかわる研修について統括する「授業力向上ワーキンググループ」を立ち上げる。
- ・校内で予定されている授業力向上にかかわる研修について、包括的、有機的に教職員で共有できるよう、授業力向上のための年間計画を立てる。
- ・同時に行える研修は合同で行い、業務の効率化、スリム化にも留意する。
- ・付帯的なスキル、今年度であれば chromebook の活用スキル向上も視野に入れる。

年度当初

各研修の担当者の目的、活動がバラバラ。
参加教員も少ない。
話し合いやスキルUPの機会が少ない。



取組み

授業力向上WGを立上げ。全研修をパッケージ研修で包括し「授業力向上」を全校取り組みとした。

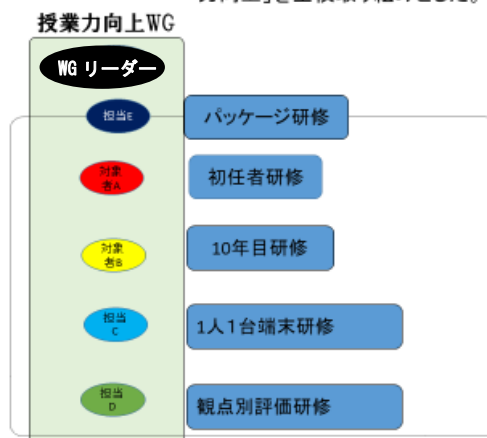


図1 取組みのイメージ(カリキュラムマネジメント研修実践報告より)

③取組みの検証方法

具体的なアンケートによる実態調査はまだできていないため、以下の方法で検証する。

- (ア) 各研修への教員の参加率
- (イ) 協議の機会の増減と協議内容の質
- (ウ) 生徒の行動観察や振り返りシートの記述
- (エ) 教員の声

3 取組みの検証

(1) 校内研究の成果

(ア) 今年度、授業力向上WGで統括した研修、協議会の参加率は以下のとおりである。

パッケージ研修第1回目	82%	…*1
10年目研修研究授業研究協議	10%	
パッケージ研修事前研修	75%	…*2
パッケージ研修第2回目	68%	
大学講師による講演	70%	…*3
パッケージ研修第3回目	56%	

今回の取組みでは、全ての全体研修について悉皆とはせず、自由参加とした。また、「主体的な生徒」を生徒像とするため、ボトムアップ型の教員の主体性を重視する研修とした。その上で、10年目研修研究授業の研究協議以外は、半分以上の先生の参加が見られた。

10年目研修研究授業の研究協議については、その場の設定すら例年困難であるが、よりよい授業づくりに向けての協議の機会を持ち、全教員の10%が参加したことには大きな意義がある。また、10年目研修の教科は数学であったが、国語、英語など他教科の参加があり、他教科の視点を

組み込まれた協議をした事実も授業力向上をチームとして取り組むことの成果と見ることができる。

参加人数が多かった*1、*2、*3は、それぞれ、*1、*3は「観点別学習状況評価」をテーマとしており、*2は「chromebookを活用した研修」であった。今年度・来年度に新たに学校で取り組みが必要な事項を全体研修のテーマとした場合、職員の参加率が高いことがわかる。「取り組まなければならない」ことを学校全体として取り組む機会を必要としている教員が少なくないことがわかる。今年度の成果としては、本校教員が必要としている研修内容を提供する機会を十分に設けることができたと言える。



図2 chromebook を用いた全体研修のための事前研修

(補足) chromebook を用いた事前研修では、ジャムボードを使って、「望む生徒像」を協議し、共有を行った。また、スプレッドシートを使って、「思考力・判断力」が身に付いている生徒の姿を協議した。事前研修で用いたスプレッドシートを用いて、パッケージ研修第2回目を行った。



図3 chromebook を用いた全体研修のための事前研修で協議に使われたジャムボード

【府教育庁】 Gmail YouTube マップ 国立教育政策研究...

R31125パッケージ研修_集約表 XL5X ☆ 田

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール ヘルプ 最終編集: 4日前 (保徳聡さん)

A1:D1 保健体育科/芸術科

保健体育科/芸術科		
教員氏名	思考・判断	今回の公開授業で見られた生徒の姿
●	積極的な行動・指示を待たずに行動に移せること	積極的に活動している。つまりながらもできる限りの英語を使って話そうとしてよかった。聞く方もうなずきながらしっかり聞いている。
●	どのように体を動かそうかと考える。どんな練習をするか決めてやってみる。教員に指示された動きをただやるだけではなく、自分で、またはグ	話している人の話を、聞くほうの人が聞いている。
●	素早い行動 グループ学習における練習メニュー選択	
●		
●	授業準備を周回を替えて、行動できるか・できないかサイン無しの盗塁 (例: WBC試合)	相手の表情を眺めながら、自分の考えを伝える。または、とにかく内容を言ってしまいたいという姿が観られる。
●	種目内容について工夫した練習課題を見つける事ができる	英語で話そうとしている姿勢は、見られる。
●	作品の意図を言語化する。課題のルールを理解し、制約の中でオリジナリティのある作品を構想する。	考えを整理しながら自分の言葉で伝えようとしている。相手の話を傾聴し、理解しようとしている。
●	授業計画ノートを確認し合いながら、自分のグループに足りない技術を把握、達成するまでの時間を逆算して取り組む。(GE)	教員の指示を正しく理解し、自身の言葉での説明を試みている。ただ、ここに至るには何度も手順を練習する必要があるかと思われる (1回目か)

2 国語科 保健体育科芸術科 数学科 理科家庭情報科看護実習教員 地歴公民科 英語科

図4 chromebook を用いた全体研修のための事前研修と、パッケージ研修第2回目で協議に用いたスプレッドシート

(イ) 今年度の全体研修の概要は、(ア) のとおりである。

例年、初任研、10年目研修にかかる研究授業の協議の場を設定することが困難であった。今年度はパッケージ研修を活用し、初任研、10年目研修とも、研究授業の協議の場を持つことができた。いずれも、教科を横断した参加となった。



図5 本校で久しぶりに設けられた10年目研修協会授業の研究協議

パッケージ研修では、2回を同教科内での協議を行った。協議内容は「観点別学習状況評価」を見据えた授業と評価である。パッケージ研修の1回目では途方に暮れる教科もあったが、最後の研究協議では、「これから求められている能力」についての理解を深めた「こんな授業が必要である」といった、今までの授業スタイルにとらわれない協議が行われるようになった。協議の内容の明らかな進展が1年を通じて見られた。

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

振り返りシートより生徒の変容が見られた。

授業の中で生徒の振り返りに変化がみられている。例えば、数学の授業の中で、ただ公式を覚え、その公式を使うのではなく、その公式自体について考えるという、変容が見られている。



図6 「公式を考えさせる授業」(本校初任研)

【本日のワークシート】

○あなたは1/6の公式をどんな場面で使っていこうと思いますか？

テストなど早く正確に問題を解かないといけないとき。

○今回の活動で最も大切だと思ったことは何か？なぜ、そう思ったか？（具体的に）

この公式が使えるのか、使えないのかで終わるのではなく、どうして使えるのか使えないのかで考えることによって、公式の意味を理解でき、また印象に残り、忘れにくくなったと思ったから。

【本日のワークシート】

○あなたは1/6の公式をどんな場面で使っていこうと思いますか？

放物線と直線、放物線どうして囲まれた図形の面積を求めるときに簡単に因数分解できるときに使うと思った。

○今回の活動で最も大切だと思ったことは何か？なぜ、そう思ったか？（具体的に）

小さな疑問でもしっかり考えることでさらに理解が深まると思った。ただ公式を使うだけでなく応用することからできるけれど、すこしでも理解を深められたら解いたことより問題もとけるようになる。

図1 公式を使うだけでなく、公式理解を深めたワークシート

(補足) ひとつの公式を考えることで、数学の本質的なおもしろさに気付く生徒が多く見られた。

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

教員の声

【今年度 10 年研修、初任者研修にあった先生からの声】

- ・公開授業についての授業指導案を相談できる場があって助かった。どうすればよいのかわからなかった。
- ・自分から研究協議を設定するのは、他の先生の負担を考えると頼みにくかったので、研究協議を準備してもらって助かった。
- ・研究授業は本当に緊張して嫌だったが、年間を通じて「観点別評価」を学ぶ中で挑戦した授業をやってやろうという気になった。研究授業が終わった後も、反省点はたくさんあったが、また次はなにをやるかという前向きな気持ちでいる。

【パッケージ研修の担当者】

- ・今年度は「観点別評価」をなんとしても完成させなければと気負っていたが、一年かけて授業者と授業を考えていくうちに、まず、本質は授業を考えることだということに立ち戻った。

【研修参加者（教諭）】

- ・chromebook を持参するようになった。みんなと一緒に chromebook を開く場がないと、一生触らないところであった。
- ・「観点別評価」をどうしていったらよいのか不安が大きかったが、初任の先生の研究授業を聞いて、「こんなこともできそう」「あんなこともできそう」とヒントになった。
- ・全体としてやることが多い。時間がない。

今年度当初、「観点別評価」「ICT」「オンライン授業」「新学習指導要領」と多くの課題がある中で、それぞれの教諭が霧の中にいるような状態であった。その苛立ちが全体研修に対して向けられることもあった。授業力向上ワーキンググループのメンバーは、全て大きく包括的にマイペーパーに取り組んでいくことで、教諭一人ひとりの理解やスキルが培われてきている実感を持てる感想であった。付带的に、chromebook の活用量が増え、職員会議のペーパーレス化促進に寄与できた。

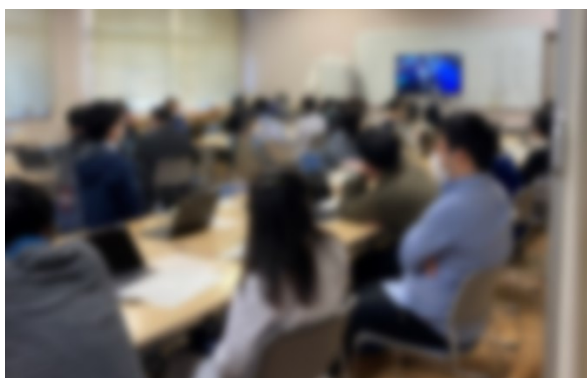


図8 パッケージ研修の中で、初任者研修の授業を見ながら、観点別評価の観点から chromebook を用いて協議を行う全体研修

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

①今年度一番の課題は、年度途中でのワーキンググループのスタートであった。年度をまたぐと、皆、それぞれの仕事の枠組みの一年間の見通しを立てた後であった。当初期待していた、積極的なワーキンググループの参加が難しかった。

②「観点別評価」「ICT」「オンライン授業」「新学習指導要領」「初任者研修」「10年目研修」「パッケージ研修」と、本校が年度当初抱えていた様々な課題を包括的に扱おうというのが今年度の取り組みであった。その中で、ワーキンググループのリーダーとして、一年間の見通しが立てきれない部分があった。一年間のスケジュールや、見通しや、それによってどのようなことが学校でできるのかを提示することができなかった。

(2) 次年度に向けて

①今年度のねらいと、できたこと、できなかったことを職員会議など全体の場で共有し、授業力向上ワーキンググループの課題の共有化を図る。

②来年度に向けた、今年度の総括と、来年度のグループの構成メンバー決定を管理職と相談し、今年度中に行う。

(授業力向上ワーキンググループ構成メンバー案)

- ・初任者研修受講者等
- ・10年者研修受講者等
- ・学校マネジメントを学ぶ立場の者（カリマネ等の受講が望ましい）
- ・統括者（首席等）

令和3年度 校内研修年間実施報告

1 令和3年度の目標(テーマ・主題)

「観点別学習状況評価」を契機として、授業力向上に学校全体で取り組む。
パッケージ研修を活用し、いくつかの研究授業、研修を有機的に繋げていく。

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4		授業力向上について、管理職と協議。	
5	19	校内研修計画を立案。【パッケージ研修を軸に、各研修を包括的に】	
	28	パッケージ研修打ち合わせ【「観点別学習状況評価」と教職員の授業力向上】	
6	14	パッケージ研修打ち合わせ【知識・技能】	
	17		職員会議で周知
	24		パッケージ研修第1回目【「知識・技能」「思考力・判断力」教科別協議】
7		授業力向上WGの立ち上げ準備期間。	
9	30	第1回授業力向上WGミーティング	
10	21	第2回授業力向上WGミーティング	
	29	第3回授業力向上WGミーティング	
11	10		10年目研修の公開授業。研究協議。
	11		初任者2年目の公開授業。【パッケージ研修を兼ねる。「思考力・判断力」】
	18		事前研修【ICT研修を兼ねる】
	25		パッケージ研修第2回目【「思考力・判断力」を育む生徒の姿】
12	17	第4回授業力向上WGミーティング	
1	27	第5回授業力向上WGミーティング	
2	4		初任者研修【パッケージ研修を兼ねる。パフォーマンス課題と形成的評価】
	10		パッケージ研修第3回目【「思考力・判断力」を育む授業づくり】
	末	第6回授業力向上WGミーティング予定	

令和4年度 校内研修年間計画

1 令和4年度の目標(テーマ・主題)

パフォーマンス課題の収集の取り組み。学校一体となった取り組み。

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
3		年度総括【令和4年度の目標、メンバー確認】	
4	1		職員会議で周知
	8	第1回ミーティング ・メンバーと役割 ・今年度の目標の共有	
	25		授業公開
5	13	第2回ミーティング ・パフォーマンス課題の収集 ・研究授業の企画・作成 ・校内研修会の企画・作成	
10	中旬		10年者等の研究授業
	下旬		初任者等の研究授業
11	11	第3回ミーティング ・校内研修の方向性について ・パフォーマンス課題と評価について	
	17		全体研修 ・評価と指導について。 ・パフォーマンス課題について
12	16	第4回ミーティング「研究授業レポート」の作成について	
1	26		「研究授業レポート」の配布
2	17	第5回ミーティング ・来年度にむけて	
3		令和5年度にむけた準備	